

ごみが資源に生まれ変わることを「リサイクル」といいます。ごみが資源になり、それがまた新しいものをつくる。そんな例を紹介します。



# ごみは貴重な資源

分別収集はごみ減量化への第一歩

私たちは、日常生活や社会活動に伴ってごみを出しています。ごみは、私たちの生活が豊かになり多様化するにつれてどんどん増え続けています。大量生産・大量消費の社会の中、増え続けるごみは、地球温暖化やダイオキシン問題、処分経費の増大など深刻な問題を生み出しています。

## 限界に近づく最終処分場 負担が増大する焼却施設

これまで家庭から出たごみは、燃やしたり埋めたりする方法で「捨てる」ことを前提に処理がされてきました。しかし、増え続けるごみを前に、埋め立て用に準備されている最終処分場の許容量は刻々と限界に近づいています。焼却施設は、ごみを燃やせば燃やすほど経費がかかり、施設も老朽化して

いきます。施設の維持補修や改修には膨大な経費がかかります。この経費は皆さんの税金で賄っています。

増え続けるごみは、私たちの生活に大きな影響を与え始めており、ごみの減量化、再資源化は緊急の課題となっています。

## 「捨てる」から「使う」へ

私たちの生活で、ごみの減量は可能なことです。今まで捨ててきたごみの中にはリサイクルできるものがたくさんあります。資源として活用できるものをあらかじめ分別し、「ごみを使う」ことにより、「捨てる」ごみをできるだけ少なくすることが大切です。

現在市では、家庭系のごみを23区分に分別し収集しています。これらのごみは、すべてを燃やしたり埋めたりしている訳ではありません。資源「ごみ」と呼ばれるリサイクルが可能なごみは、分別された区分ごとにいろいろな用途にリサイクルされ、新しい製品となって生まれ変わることが出来ます。これらは「ごみ」ではなく大切な資源なのです。

## 燃えるごみの減量に大きな効果 廃プラスチック類分別収集

燃えるごみが多いと、焼却施設の稼働時間が長くなり、その分経費がかかり、また、施設の寿命を縮めます。

今まで燃えるごみとして出していたものの中には、多くのプラスチック類が含まれていました。しかし、プラスチック類は、実はただ単に燃やす以外にも処理できる方法があるごみなのです。これらを燃えるごみとして出す前に、ご家庭で先に分別しておけば、燃えるごみの減量に大きな効果を発揮します。

今年4月から8月までに家庭から出た燃えるごみの搬入量は、皆さんのご協力で、昨年の同時期より776トン(△12.5%)減量することができました。効果は着実に出てきています。

## CO<sub>2</sub>削減に効果

廃プラスチック類は、成型処理施設でRPF(固形燃料)に成型され、製紙会社に売却されます。製紙会社では、製紙過程で多量の電力を必要とするため、発電ボイラーを使用しています。発電ボイラーは、これまで石炭を燃料としていましたが、RPFはこれに代わる燃料として使用することが出来ます。この新たなエネルギーを使用することにより、CO<sub>2</sub>(二酸化炭素)を半減することが出来ます。

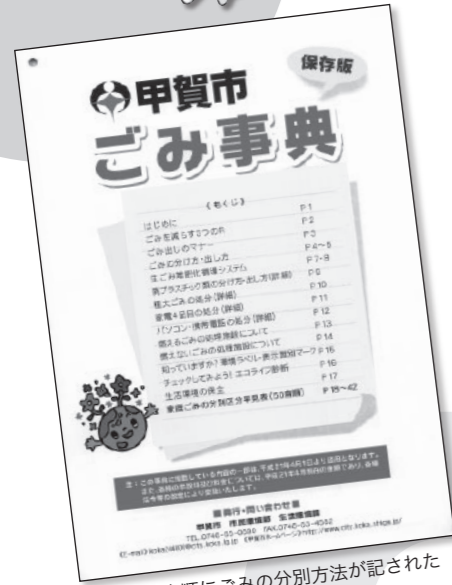


▲成型された固形燃料

甲賀市から出される固形燃料を使う製紙工場では、現在燃料の約70%に固形燃料を使用しています。

このように、廃プラスチック類の分別が進めば、燃えるごみの量が減り、焼却施設の延命化につながるとともに、CO<sub>2</sub>を抑えることにより、地球温暖化の防止にも役立ちます。

困ったときは  
これで確認



▲五十音順にごみの分別方法が記された  
甲賀市ごみ事典

## 正しい分別で効率よくリサイクル

RPFに不純物が混入すると、塩素ガス発生の原因となったり、発熱が悪くなり、ダイオキシン発生の原因となり、使用することができません。

現在収集されている廃プラスチック類には、対象外のごみが混入していることが多く見られます。中には、ガスライターやスプレー缶、刃物などの混入も見られます。これらがRPFに混入すると、品質が低下し無駄になるばかりか、分別作業にも大きな危険が伴います。

## 正しい分別は少しの意識で 選別されている方にお話を聞きました

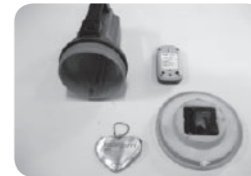
不純物の中で圧倒的に多いのが食べ物の残りかすです。これが少しでも入っていると、他のごみまで汚すことになり、不純物を増やすことになります。また、悪臭もひどくなります。さっとすすぐだけで不純物はかなり少なくなりますので心がけていただきたいです。

収集したごみに不純物が多いと、選別時にラインを止めることになり、リサイクルの効率が落ちてしまいます。現在収集しているごみのうち約2割が不純物です。少しの意識が不純物を少なくします。みんなが意識し、正しく分別されることを願っています。

### リサイクルできないもの



▲汚れが著しいもの



▲金属が付いたままのもの



▲廃プラスチック類以外のもの

## 開始から半年 私が思う 廃プラスチック類の分別

開始から半年が経過した廃プラスチック類の分別収集、少しとまどう方もおられるかもしれませんが、実際にどのように分別されているのでしょうか。市民の方にお話を聞きました。

「こうかまちかと特派員 富山由美子さん」



廃プラスチック類は「見ややくしい」ように思いますが、対象物の多くに廃プラの表示がされているのが何より心強いです。

「ごみ箱を複数用意しなければならぬ」というのは少し面倒ですが、そうしないとつい燃える「み」と一緒に捨ててしまいます。意識付けのためにも、居間や台所には必ず廃プラ専用のごみ箱を設けています。

分別収集をする理由を知ることによって、私たちもごみの問題をもっと身近に考えることができると思います。



「こうかまちかと特派員 金田貴子さん」

廃プラスチック類は体積が大きいので、1週間に1度の収集だと、保管場所に苦労します。暑い時期だと臭いや虫の原因にもなるので、乾かしてから袋に入れていきます。

分別は概ねできていているように思いますが、話を聞いていると人によって少し温度差があるような気がします。細かい部分では分からないこともありますが、詳しく知ればまだまだ廃プラスチックで処分できるものもあると思います。



「こうかまちかと特派員 福田智子さん」

食材やシールが付着しているところまでが廃プラでOKなのか考えてしまいます。洗うのも大変と

思ったりすることもあります。面倒でも「エコ、エコ」と自分に言い聞かせて取り組むようにしています。子どもにも小さいうちから分別収集できるようにと、分かりやすいものから教え、一緒に経験しています。

「こうかまちかと特派員 松本美恵子さん」



分別はできているように思います。各世帯に配布されている「甲賀市ごみ事典」を参考にしています。ただ、シールがたくさん貼ってある

とはがすのが大変です。調味料などが入った小袋も洗うのが大変です。

廃プラスチック類には表示がされていますが、もっと大きく分かりやすい表示だと、捨てるときに目につくので意識できるのではないのでしょうか。

### 30代主婦の方

廃プラスチック類は分別していますが正しくできていないかどうかは自信がありません。汚れたまま袋に入れてる人も多いのではないのでしょうか。もっといろんなところで呼び掛けていけば徹底できるのではないかと思います。

### 60代主婦の方

最初はこれは大変だと思いましたが、ごみは毎日付き合うものですし、意識しているうちに少しずつ慣れてきたように思います。まずは家族、そして地域という感じで分別意識が広まっていけばと思います。

### こういうときはどうすれば？

**Q** 弁当のパックなどについた紙ラベルが取りにくいですが。

**A** 簡単に取れるものは取っていただいて、取りきれないものは廃プラスチックとしてそのまま出してください。

**Q** 納豆のパックは洗うのに手間がかかります。どの程度まで水洗いすればいいのですか。水滴がついていてもいいのですか。

**A** 水を使うことが逆に環境負荷につながりますので、見た目がきれいであれば、さうとて結構です。水滴がついていてもOKです。なかなか汚れが落ちない場合は燃えるごみとして処理してください。

ちなみにスナック菓子の袋ならば、粉をきれいに払ってください。袋についた油分程度ならば、水洗いしなくてもリサイクルできます。

**Q** 家ではいったんコンビニの袋に廃プラスチック類を分別しているのですが、そのまま指定袋に入れても良いのですか。

**A** 集められた廃プラスチック類はすべて確認しています。小袋に入っていますと確認が大変な手間がかかります。小袋からすべて出してから指定袋に入れてください。※廃プラスチック類は必ずプラスチック専用指定袋に入れて出してください。(指定以外の袋で出された場合は収集できません。)

## 一人ひとりの心掛け が大きな効果に

ごみの分別は、皆さんの協力で確実に進んでいます。

しかし、燃えるごみの中に、資源化できる空き缶や空きビン、プラスチック類等がまだ混ざっています。さらに燃えるごみの量を減らし、焼却施設の延命化、環境への負担を軽くするためにも、徹底した分別が必要なんです。ごみの減量化は一人ひとりの心掛けがなければできません。燃えるごみは、燃やすことでしか処理する方法がない「最後のごみ」だけを排出するようごみ箱に捨てる前に今一度確認しましょう。

### 問い合わせ

生活環境課 廃棄物対策担当  
☎ 055-066900 ☎ 063-45582